

2011年11月9日(水)のこと

## モバイル向け Flash ついに開発中止 ~ Adobe の決断

Adobe Systems が、モバイル向け「Flash Player」の開発中止を発表しました。「iPhone」などのiOS端末がサポートしなかったことで、Apple とAdobe の間の対立がクローズアップされ、結局のところ、Adobe が白旗を揚げたかっこうになりました。モバイル向けでは今後、HTML5 に注力してゆくこととなります。一方で、メディアからはFlash そのものの将来を危ぶむ声も上がっています。

### きっかけは Apple、Google は味方につけたが MS は敵に

Adobe のインタラクティブ担当副社長兼ゼネラルマネージャーの Danny Winokur 氏は2011年11月9日、Adobe の公式ブログで、Android と BlackBerry Playbook (Research In Motion) 向けに提供しているFlash Player の開発を中止することを明らかにしました。まもなくリリース予定のバージョン11.1 が最後のバージョンになるということです。

同社は今後、HTML5 にシフトし、開発者が Adobe AIR を利用してネイティブアプリケーションを作成できるよう支援してゆくということです。Winokur 氏は HTML5 は主要モバイルプラットフォームが幅広く対応している。モバイルコンテンツの作成と実装ではベストソリューションだと完全に負けを認めた上で、今後、Google、Apple、Microsoft、RIM などのHTML コミュニティと協業し、HTML5 がモバイルブラウザを前進するようイノベーションを進めていくと述べています。

モバイル向けFlash では、「iPad」を発表したApple がiOSでのサポートを明確に拒否したことでAdobe との対立が鮮明化しました。さらに、Apple 前CEOの Steve Jobs 氏が、「リソースを浪費する、バグが多い」などとFlash を酷評したことなども伝わって、かつての重要パートナーである両社が、互いに非難するという展開になりました。

動画などFlash はデスクトップでは圧倒的な普及率を誇ります。この勝負も当初は、Flash にも勝算があるように見えたが、Apple はFlash サポートを断固として拒みました。Apple のライバルGoogle はAndroid でサポートしました。またAdobe は、スマートフォン本格化以前からモバイルでの普及に向けて「Flash Lite」を開発したり、ARM と協業するなどの取り組みを進め、2008年にはFlash 推進プロジェクト「Open Screen Project」を立ち上げ、ライセンス料の撤廃にも踏み切っていました。しかし、Apple に続き、Microsoft も「Windows Phone 7」ではFlash に対応しませんでした。2012年に投入予定の「Windows 8」でもデフォルトサポートなしとする方針を示しています。

## HTML5が注目を浴びる理由

HTML5では、マークアップだけでなく、これまで当たり前のように使われてきたAPIを標準化したことに大きな意味があります。

これまでRIA(リッチ・インターネット・アプリケーション)を実現するためには、Adobe社が提供するFlashや、Microsoft社が提供するSilverlightといったプラグインに頼らざるを得ませんでした。こういった機能はウェブ標準として規定されていないこともあり、ブラウザにRIAに必要な機能が実装されていない、実装されていたとしてもブラウザによって使い方が違う、という大きな問題が横たわっていました。そのため、プラグインはウェブにとって必要不可欠なテクノロジーです。

ところが、HTML5にはさまざまなAPIが規定され、さらに、ブラウザ・ベンダーが積極的にHTML5にかかわることで、この状況が大きく変わってきました。これまでプラグインでしか実現できなかったことが、ウェブ標準のAPIをJavaScriptから扱うことができるようになるのです。とはいえ、JavaScriptで、プラグインでしか実現できなかったことができるようになったところで、本来であれば、さほど大きなインパクトはないはずですが。なぜなら、これまで通りプラグインを使えば良いからです。では、なぜ、それほどまでにHTML5が注目されたのでしょうか。1つとして、iPhoneとiPadが挙げられるでしょう。iPhoneとiPadでは、Apple社の方針によりFlashを利用することができません。RIAを実現するためには、HTML5に頼らざるを得ないのです。

HTML5がもたらす本当のインパクトとは、ウェブ・ページがリッチになるという点ではありません。既に言及したとおり、多くの機能はプラグインで実現されています。利用者から見れば、それがプラグインで実現されていようが、HTML5で実現されていようが、関係がないことです。HTML5によってもたらされる本当のインパクトは、HTML、JavaScript、CSSといったウェブ標準のテクノロジーが、あらゆるコンピューター・アプリケーションのベースになる可能性を秘めている点なのです。既にスマートフォンの世界では、その流れが現れてきています。

これら海外のスマートフォンでは、既にアプリケーション開発のプラットフォームとして、HTML、JavaScript、CSSを採用しています。ウェブ標準のスキルだけで、ネイティブ・アプリケーションと変わらないアプリケーションを製作できます。デバイスごとにネイティブ・アプリケーション向けのプログラミング言語を学ぶ必要がないのです。

ウェブ標準のテクノロジーは、パソコン向けのウェブという領域を超え、スマートフォン、テレビなど、さまざまなコンピューター・デバイスのアプリケーション開発のプラットフォーム

になる可能性が出てきたのです。これは、ウェブ業界に閉じた話ではなく、あらゆるコンピューター関連の業界を巻き込むことを意味します。